



質問に答えて・・・レファレンスコーナー



今回のレファレンスコーナーでは、県内にお住まいの方から寄せられた、2件のレファレンスを紹介します。

Q 「筆満可勢(ふでまかせ)」の著者、「藤原衆秀」の読みを知りたい。

『国書総目録』によると、「筆まかせ」として載っており、紀行、著者は豊後大掾(藤原衆秀)、天保12・13改訂とあります。

作品について詳しく調べるため、『日本古典文学大辞典』で引いてみると、「筆満可勢」は紀行文で、著者は「富本繁太夫(とみもとしげだゆう)」、文政十一年(1828)から天保七年(1836)までの旅日記であることが記されています。

内容の冒頭に、「江戸深川仲町住の富本浄瑠璃語り繁太夫は、生活に窮し鎌倉へ借金取立てに出発、目的果たせずやむなく浦賀を経て仙台石巻へ渡る。以後、豊後大掾藤原衆秀と僭称して盛岡・宮古・秋田・木庄・酒田、鶴岡・新潟・長岡・高田と東国各地を旅する」とありました。

このことから、確かに著者が「藤原衆秀」であることは確認できましたが、読みは記載されていませんでした。

『日本古典文学大辞典』には、「筆満可勢」の自筆本は、現在残っているのは第一・二・五の三冊のみで、東北大学附属図書館で所蔵していることと、副刻が『日本庶民生活史料集成第2・3』として出版されていることが参考として記されています。このことを手がかりに、まずは東北大学の蔵書データを確認すべく、ホームページにアクセスしました。

東北大学附属図書館の蔵書を、「ふでまかせ」をキーワードに検索。すると、寫本「『筆まかせ』／豊後大掾藤原衆秀撰」の所蔵が確認できます。著者標目には、「フジワラシュウシュウ」とあります。この読みが正しいのかどうかは別として、次に、当館所蔵の『日本庶民生活史料集成第二巻・第三巻』を調べてみることにしました。

『日本庶民生活史料集成』には、「筆満可勢」の解題があります。これによると、現存する三冊は東北大学附属図書館の符野文庫として保存されているが、そこに収まるまでの経緯も分からず、もともと何冊あったものか明かではないことが分かります。また、著者の身許は江戸深川仲町の富本を語る芸人というだけで、そのほかは一切不明。豊後大掾藤原衆秀の芸名は偽称であり、本来の芸名は繁太夫であることが本文に明記してあるという

ことも記されています。

この記述中、「衆秀」の名に「もろひで」の読みが付されていました。

『日本古典文学大辞典』の中に、参考文献として小宮豊隆著の「富本豊後大掾日記」が載せられています。この著書については、『日本庶民生活史料集成』でも触れており、紀行文としては全く異類な「筆満可勢」の特質を、かなり詳しく記述している資料であることが紹介されています。この資料にも、「衆秀」の読みが載っている可能性はありましたが、残念ながら所蔵していないため、確認することはできませんでした。

結局、「しゅうしゅう」と「もろひで」の二通りの読みが確認できたわけですが、文献調査を基本とすると、「もろひで」の方が正しいということになります。

レファレンスの現場では、いつも新しい発見や知識を得ることができます。今回の調査では、「筆満可勢」という作品について知ることができました。生活のために中央の芸を売りに旅を続ける「生活者」としての実態と、そこで生活する地方の人々の態度を活写したこの作品は、紀行文としては異色とされているようですが、著者が道中、岩手に立ち寄った時の出来事が書きとめられていることなどは、郷土に関する資料としても大変興味深いところです。

また、著者の鋭い勘と観察力によって記された、各地の民俗・習俗などは、『真澄遊覧記』にも匹敵するほどの観察記録であることが、『日本庶民生活史料集成』に紹介されています。今後のレファレンスサービスに役立てることができれば幸いです。

参考資料

- 1 『日本古典文学大辞典』第5巻(は～め)
(請求記号 R910.3/ニ10/5)
- 2 『日本庶民生活史料集成』第2巻・第3巻
(請求記号 382.1/ニ6/2・3)

※平成15年1月に行った、岩手県立図書館主催の「郷土史料読み解き講座」において、「筆満可勢」を題材に取り上げましたが、その際の著者の読みは「もろひで」として紹介しております。

Q 真空ポンプの試験方法について書かれている本はないか。

ここで言う「試験方法」というのは、どうやら性能検査のことのようです。

まずは「真空ポンプ」をキーワードに蔵書検索してみますが、該当するものはありません。そこで今度は、「ポンプ」をキーワードに探してみると、「新ポンプ入門」、「わかる！ポンプの選び方・使い方」があることが分かったため、さっそく現物を確認してみました。

しかし、残念ながらどちらの資料にも、試験方法のような詳しい内容は載っていませんでした。

ところが、「新ポンプ入門」の巻末付録の部分に、「各種ポンプの日本工業規格」として、ポンプ関係JIS一覧が載っており、その中で「真空ポンプ」の名称が入ったポンプの試験方法がいくつかあったのです。

このことを手がかりに、今度はJIS関係資料を探してみることにしました。JISが載っている資料には、「JISハンドブック」があります。この資料は、JISについて、それぞれの分野ごとに1冊にまとめられています。

「JISハンドブック 2003ポンプ」によると、真空機器の項目に、真空ポンプの種類と定義の解説、そして性能試験方法までが記載されていました。

真空ポンプの定義は、「真空を作り、改善し、保持する機器。基本的に異なっている二つの種類である気体輸送式ポンプ（2.1.0容積移送式真空ポンプ、2.1.2運動量輸送式真空ポンプ）及び気体ため込みポンプ（2.1.3気体ため込み式真空ポンプ）とに分類される。」とあります。性能試験方法のJISは4つあり、「容積移送式真空ポンプ」の性能試験方法が2つと「蒸気噴射真空ポンプ」の性能試験方法が2つでした。これらは日本工業規格として制定されていますが、この規格の対応国際規格として、ISO番号も表示されています。

また、インターネットを利用して、日本規格協会のWebサイトにアクセスすると、これらのポンプ試験方法について、有料でPDF形式のファイルをダウンロードできるほか、冊子体でも購入できることが確認できました。

調査は以上でしたが、質問の内容から、すぐに「JIS」へ結びつかなかったことで、結果的に遠回りしたような気がします。レファレンスブックに精通することが、回答への早道であることを痛感しました。

参考資料

- 1 「新ポンプ入門」
（請求記号 534.4/オ1/1）
- 2 「JISハンドブック 2003 ポンプ」
（請求記号 R509.13/ジス/2003）

日本規格協会Webサイト (<http://www.jsa.or.jp/>)

図書館体験ツアー開催

県立図書館で実施している各種サービスへの理解を深めていただくために昨年度に引続き開催いたしました。

本年度は平成15年11月16日（日）に小学生対象（保護者同伴可）、12月7日（日）に一般対象（中学生以上）と2回に分けて開催いたしました。小学生対象では同伴者も含めまして20名、一般対象では12名の参加をいただきました。



県立図書館の概要、各種サービスに関する説明の後、普段はなかなか目にするのでできない大型古絵図・和本類の閲覧、また豆本や大型絵本などの紹介もおこないました。その後は2グループに分かれて館内の見学、マ

イクロフィルムの閲覧、また10月15日よりコンピュータが導入されリニューアルオープンしたということもあり、パソコンを使用しての資料の検索方法、当館のホームページ上でのサービス等も併せて紹介いたしました。

今回のツアーは、図書館は本の貸し出し以外にも様々なサービスを実施し、それを活用していただけることを目的としておりますが、参加者の方から「図書館はこんな利用方法もあるんですね。」等声をかけていただくなど、2回とも非常に好評のうちに終了することができました。このツアーが図書館を上手に活用していただけるきっかけになればと願っております。

